

特別支援学校中学部1・2年道徳『Q～こどものための哲学』の活用した

対話的で深い学びの実現

東京都立光明学園 病弱教育部門 主任教諭 川口 尚人

【実践報告の概要】

本校は在籍生徒数が少ないので、なかなか生徒同士の対話が成立しにくい。番組を利用して、自由な発言ができる環境を整えることで自分の言いたいことや考えを言えるようになる。まず道徳の教科書に触れて、内容項目に合う本番組のテーマを選んで視聴する。道徳の内容項目と番組のテーマとの関連を見極めて選ぶことができたなら、番組のテーマに沿って番組視聴後、同じ方法で「Qワード」を使って考え、意見を出し合う。その後の展開は、高校倫理の実践と同様である。道徳の番組のように徳目が全面にこないで、生徒も自由な発言を引き出すことができる。

【取組の具体例】中1・2 道徳

授業の前半は教科書を1項目ごとに進める。後半の30分間で番組を使って授業を進める。

教材名 死んだらどうなるの？

内容項目 生命の尊さ (D-19)

Qワード:なんで?、どうして?、ほかの考えは?  
ねらい 番組を視聴してテーマを深く考え、自分の考えを深めることができ、生命の尊さを知る。

1. 本時のテーマを確認し、自分の考えを言う。

「死んだらどうなるの?」

・生まれ変わる、わからない、忘れられる

2. 番組視聴 Q～こどものための哲学#4「死んだらどうなるの?」(10分間)

Qワードを意識しながら視聴する。(なんで～?、どうして～?、ほかの考えは?)

3. 番組と同じように「Qワード」を使った教員の質問への考えを言い、思考を深める。答えを記録する。

Q: 死や死ぬのはこわい?

A: 怖くはない、かなしくない、日によって違う、いつ死んでもいいように生きているつもり。

Q: 死にたい、と思ったことある?

A: 覚えていない、わからない、死にたいと思ったことはないけど消えたいと思ったことはある、…(中略)…

4. 最終的な考えを決め、発表する。

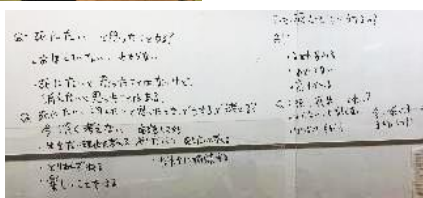
Q: 死にたい、消えたいと思った時、どうする? どう考える?

A: 今深く考えない、生きたい理由を考える、実現してからやりたいことを考える、とりあえず寝る、誰かに相談する

5. 授業を振り返り、感想をまとめる。(発表はしない)

添付されたワークシートを使って、この時間の授業の感想をまとめる。

A: みんな感じ方が違う、どの答えも必ずしも答えが正しいとは言えない



【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「Q～こどものための哲学」

「Q～こどものための哲学」は、アクティブ・ラーニングに必要な「思考力と対話力」を育むこども向け哲学番組。(番組Webサイト番組紹介参照) 日常の中で抱いた疑問を対話しながら深めていき、最終的に納得できる“自分なりの答え”を見つけていく。この対話劇を見ることで、正解のない問いについてどのように考えを深めていけばいいのかが分かる。

○もともと道徳のために作られた番組ではないが、道徳として内容項目にあてはまるものもあるので、どの内容項目にはどの番組が活用できるか、教員が判断しなければならない。しかし、そこをしっかりと吟味すればあとは実践するのみ。

○ワークシートが決まった書式で、毎回の授業で積み重ねができる。

○正解のない設問なので、逆に何を言っても間違いではないことで、生徒は自信をもって発言できる。

【本実践における工夫点】

道徳としての自分の考えの確認

ともすると道徳の授業では生徒が答えを先回りして教員の正解を想定して答えてしまうことがある。ここでは期待された答えを言えるようになるのではなく、自分の本音を出せることが大切だと思い、どんな答えでも誰が答えても同じように板書をする。

「Qワード」の見える化

考える指標として「Qワード」をダウンロードして提示して、みんなが同じ土台で発言ができるようにする。

番組の継続的な視聴

毎回同じパターンで授業を行う中で、番組視聴、「Qワード」からどのように考えを深めていったらよいか、考える方法を身に付けることができる。

【本実践の成果○と課題●】

○番組を視聴して、そのまま実践することで自分の考えを素直に表すことができるようになった。

○番組の雰囲気から自由に発言できる雰囲気を作ることができた。

○生徒一人の授業でも、実態に合わせて教員が質問を続けることで対話的で深い学びを実現できた。

○思考のパターンを習得することで、自分一人で思考を深めていく習慣を身に付けることができた。

●思考方法を汎化していろいろな場面で応用できるようにしていきたい。